

市長メッセージ

北朝鮮による日本人拉致問題は、我が国の主権及び国民の生命と安全にかかわる重大な問題であります。また、拉致被害者ご家族も高齢となる中で、時間的制約のある拉致問題は、ひとときもゆるがせにできない人道問題であり、拉致被害者のご家族はもとより、国民の間にも差し迫った思いが強まっています。



政府は、この問題を最重要課題として、国の責任において、早期解決を目指すこととしており、令和6年5月の国民大集会では、岸田首相からは、「総理大臣として自らが先頭に立ち、何としても私自身の手で拉致問題を解決する」という強い決意が示されました。

私は、北朝鮮による拉致問題の解決に向けては、外交問題としての国に対する働きかけだけでなく、拉致被害者を有する本市の市民一人ひとりが、この問題を我が事として捉え、決して忘れないという意識を涵養していくことが重要であると考えております。

このため、私は、平成26年の市長就任以来一貫して政策宣言に「拉致問題解決に向けての支援強化」を掲げ、拉致被害者・特定失踪者を抱える自治体の長として、市民の皆さんと一体となって様々な機会を捉え、周知・啓発活動を継続して行って参りました。

さらに、拉致問題の解決に向けた市としての体制を強化するために、令和5年度からは福祉部に拉致問題対策業務を担う専門の担当者を配置したところであります。

拉致被害者のご家族は、一刻も早く愛する家族を救出したいとの切実な思いを抱いて活動されておられます。しかしながら、未だ多くの方々が北朝鮮に取り残されている状況であり、川口市内にも政府認定の拉致被害者である田口八重子さんをはじめ、4名の北朝鮮による拉致の可能性を排除できない方がいらっしゃいます。拉致から今日までの長い時間が経過し、この間、田口八重子さんの長兄であり、「北朝鮮による拉致被害者家族連絡会」の前代表であった飯塚繁雄さんが逝去されるなど、ご存命中に再会が叶わなかったご家族の無念を思いますと、胸が強く締め付けられる思いです。

この問題を風化させないためには、「拉致被害者を取り戻すまで、私たちは絶対にあきらめない」という市民の皆様一人ひとりの声が、力強い支えとなります。これからも共に声を上げ続けていきましょう。

川口市長 奥ノ木信夫